

第2回税制全体のグリーン化推進検討会

2016年7月28日（木）10:00～12:00

経済産業省別館3階302会議室

議 事 次 第

1. 開 会

2. 議 事

- (1) 第1回検討会におけるご指摘事項について
- (2) 地球温暖化対策のための税の環境効果について（経過報告）
- (3) 車体課税の環境効果について（推計結果）
- (4) 研究者へのヒアリング

地球環境戦略研究機関（IGES） 上席研究員 小嶋公史氏

- (5) その他

3. 閉 会

配 付 資 料 一 覧

【資料】

- 資料1 国内外における税制のグリーン化に関する状況について（第1回検討会におけるご指摘事項への対応）
- 資料2 地球温暖化対策のための税による環境効果の分析について（経過報告）
- 資料3-1 車体課税のグリーン化の動向等に関する調査
- 資料3-2 車体課税のグリーン化による環境効果の分析について（推計結果）
- 資料4 2050年までの温室効果ガス大幅削減に向けた経済的措置に関する調査・検討（小嶋氏ご提出資料）

【参考資料】

- 参考資料 E3MEモデルおよびAIM/CGE[Japan]モデルの概要（小嶋氏ご提出資料）

議 事 概 要

1. 第1回検討会におけるご指摘事項について

事務局から、資料1について説明。これに対する委員からの主な意見は下記のとおり。

- 日本では、炭素税などの環境関連税の税額は少ないと言えるが、産業用電力や産業用燃料は、本体価格を併せると諸外国に比べて比較的高い。税を導入する際は、一つの問題になるだろう。
- 燃料の本体価格に運賃が含まれるかどうか確認していただきたい。運賃は専用船等々でも変わらないようになっているはずだが、日本の本体価格がなぜこれほど高いのだろうか。
- 国民負担率と環境関連税収のGDP比について、回帰係数の有意性を確認していただきたい。
- 屋久島の入山料は、今年度の屋久島の町議会で1,000円に変更することが決定しているので変更した方が良い。

2. 地球温暖化対策のための税の環境効果について（経過報告）

事務局から、資料2について説明。これに対する委員からの主な意見は下記のとおり。

- 過去の行政事業レビューに実績がある事業については、行政事業レビューにおける成果目標の削減量と実際の削減量の乖離度合いを推計に反映した方が安全ではないか。

3. 車体課税の環境効果について（推計結果）

事務局から、資料3-1、3-2について説明。これに対する委員からの主な意見は下記のとおり。

- 電気自動車が主流になるまでの話として、燃費基準や現在のエコカー減税や環境性能割の対象となる基準を相当厳しくする方向性を主張することは、地方の税収を上げること、環境性能の良い車へのインセンティブ効果や技術革新、両方の側面で良いと考える。
- 中長期的に考えると、自動車が必要なエリアと公共交通で賄えるエリアを区別し、将来的には2つのエリアで税の体系を変える必要があると考える。その際、人口減少や高齢社会を考慮して、福祉関連の観点を税制グリーン化の切り口に加えた方が良い。

4. 研究者へのヒアリング

地球環境戦略研究機関 上席研究員 小嶋公史氏から、資料4について説明を行い、これに対して御議論いただいた。